

【学校教育目標】 「自分とみんなのために」心を尽くし、学びを深め、ともに動く 大小っ子の育成
【目指す児童像】 「気づく子 学ぶ子 元気な子」

大村市立大村小学校

学校だより

第13号

令和7年12月5日発行

文責：校長 堺 邦寿

玖城のほとり



★ 多くの行事を通して、大きく成長しています！ ★

11月も多くの校外学習や体験学習を行いました。普段の教室での学習では味わえない、実感を伴う学習を通して、単なる知識としてではなく、具体的な体験を通して物事を深く理解し、自分のものとして感じることができるようになります。

◆1年生 秋探し 11月19日(水)

生活科の学習で、大村公園に秋探しに行きました。イチョウの葉やどんぐり、桜並木での落ち葉拾いなどを通して、身近な秋を肌で感じることができました。決まりを守り、楽しく活動する子どもたち、すばらしかったです。

◆2年生 町たんけん 11月5日(水)

アーケードや学校付近のお店を訪問し、お店の仕事などについてのお話を伺いました。多くの方々との交流を深めることができました。保護者の皆様には子どもたちの見守りも行っていただき、ありがとうございました。

◆3年生 大村市内見学 11月7日(金)

市内の長工醤油味噌協同組合大村工場、大村消防署の見学に行きました。実際に見て学ぶことで、仕組みなどが分かるとともに、そこで働く人の気持ちにも触れることができました。森園公園で食べたお弁当の味も格別でした。

◆4年生 長崎見学 11月21日(金)

長崎市にある如己堂、山王神社、原爆資料館、爆心地公園、平和公園に行き、平和学習を行いました。大小っ子全員で折った千羽鶴も捧げました。長崎市科学館では、多くの理科の不思議や楽しさに触れることができました。

5年生 福祉体験 11月20日(木)、21日(金)

社会福祉協議会様、大村城南高校の生徒の方々のご協力を得て、車いす体験学習や福祉についての学習を行いました。活動を通して、気付くことの大切さを知り、自分とみんなの幸せのために力を尽くすことを学びました。

6年生 修学旅行 11月13日(木)～14日(金)

1日目は、佐賀宇宙科学館での宇宙体験、吉野ヶ里公園での勾玉作り、朝倉町での絵付けなどの体験を行いました。2日目はグリーンランドで、みんなで協力して、楽しく活動しました。友だちとの絆を深めた2日間となりました。

☆☆☆ PTA等の活動へのご協力、ありがとうございました！ ☆☆☆

11月は、PTAや健全協をはじめとした多くの皆様のご協力を得ての活動も多くありました。いつも大村小学校の子どもたちの健全育成のために、お力添えをいただき、ありがとうございました。

◆くろもん祭り(地域友好祭) 11月8日(土) 大村小学校にて

今年で19回目となる「くろもん祭り」。子どもたち、保護者・地域の皆様、中学生・高校生が一緒のくろもん祭りで、みんなの絆がまた一段と強くなりました。ご協力ありがとうございました。

◆玖中校区PTA球技大会 11月16日(日) 玖島中学校にて

今年もソフトボール、ソフトバレーボールの2種目で熱戦が繰り広げられました。ソフトバレーボールはくしくも準優勝でしたが、保護者の皆様との親睦が図れました。ありがとうございました。

◆健全協ウォークラリー大会 11月22日(土) 大村公園周辺

今年も多くの皆様の参加を得ての開催となりました。今年は、大村公園を中心としたコースで、大村の歴史などを楽しみながら学ぶことができました。健全協の皆様、ありがとうございました。

～みんなちがって みんないい (その8)～

今回はSLDに続き、AD/HD(注意欠如/多動症)についてお話しします。

昨年、自身がAD/HDであることをカミングアウトしている有名人の方がたくさんいることをお話ししました。AD/HDとはいっても、その困り感は十人十色で、よく似ていることはあっても全く同じだということは稀です。また、その人が生活する環境(家庭・職場・学校など)によって、困り感の違いは大きく異なってきます。職場によっては、その特性が生かせる場合もあるのです。

AD/HDもSLD同様、脳の中樞神経に伝達異常があることは分かっていますが、原因は特定できていません。ただ、情報伝達系のホルモンの調整を行う服薬によって、特性の改善が見られるため、発現する原因は分からないものの、脳内の情報伝達ホルモンの問題が症状を引き起こしているのではないかということが分かっています。

AD/HDは日本語名称からも分かるように、「不注意」「多動性」「衝動性」の3つの特徴があります。ただし、すべてのAD/HDの人に、3つの特徴すべてが表れるわけではありません。また特性によって「多動・衝動優勢型」と「不注意優勢型」「混合型」に分けることがあります。「多動・衝動優勢型」を「ジャイアンタイプ」、「不注意優勢型」を「のび太タイプ」と形容することがあります。考えるよりも先に行動してしまう人はジャイアンタイプ、忘れやすく作業を後回しにしやすい人はのび太タイプ、どちらも当てはまる人は混合型と考えると分かりやすいかも知れません。

「不注意」とは、集中すべき時に集中することができず、気が散ってしまうことです。

「多動性」とは、落ち着きがなく、そわそわして、座っていても体や視線が動いたり、席を離れて自分の興味があるものに向かったりすることです。

「衝動性」とは、自分の感情をコントロールすることができず(抑えきれず)、即座に反応してしまうことです。

具体的には、

- 音がした方や人が通る姿など、ちょっとした刺激にすぐに反応してしまう。
- 集中する力が弱く、ボーっとしたり他のことにすぐ興味がそれたりしてしまう。

- 一見すると話を聞いているように見えるが、頭の中ではまったく別のことを考えていて、話を聞き逃してしまう。
- 深く考えず、ものごとをパッと見ただけで判断してしまう。
- 結果を考えずに行動してしまう。
- 興味のあるものは、すぐ触ったり手に取ったりせずにはいられない。

などがあります。

こういうことは幼児期や小学校低学年には、よくあることです。しかし、あくまでも「性格の範囲」であり、その状態が「同年齢の子どもたちに比べて、掛け離れている」、「学年が上がっても、なかなか成長が見られない」となれば、「適切な支援を必要としている」と考える必要があります。

AD/HDはSLDと同じように、成人後にもその特性が継続します。例えば「成功体験が忘れられず、パチンコなどのギャンブルが趣味になりやすい」「多動・衝動が強いと人とトラブルになりやすい」「車の運転中に、人の運転に対して文句を言いやすい」「見栄を張って後先考えず、返済能力以上の物を欲しがったりする」などが見られます。「多層・衝動優勢型」の人はギャンブル依存症になりやすい傾向があるともいわれています。

また「不注意」が強いと、仕事でミスすることが多いために、離職を繰り返したり、車で事故したりすることが多くなりがちです。

「性格の範囲内」で問題なく過ごせていて、後は環境に適応さえできていれば、仕事に就いたり自立して生活したりすることができます。ただ、前述した具体例のような特性が原因で、「十分に学習が身に付かなかった」「交友関係が適切に築けずトラブルが絶えなかった」などが少年期～青年期まで続いてしまうと、「自己喪失感」に捉われ「自己否定」するようになり、「社会不適応」を起こしたりすることも少なくありません。逆に能力以上に自己有能感が高いため、うまくいかないことを周りのせいにしたり、上司が自分を分かっていないからだ勝手に解釈して、逆恨みしたりすることもあります。何よりも将来の可能性を狭めてしまうことが懸念されます。

失敗経験や劣等感が重ならないよう、医療・服薬等も利用しながら早期対応することで、二次障害の予防や自尊心の低下を防ぐことが大切です。